

6-1 薬はどのくらいの種類があるのですか？

たくさんある薬をどのように管理しているのですか？

薬の種類

薬にもいろいろあり、医療用や市販用など、全てあわせたら数万になるかもしれません。医療用だけでも1万は超えると思われます。同じ成分の薬でも先発品とジェネリック品があり、規格（含有量0mgなど）の違うものもあります。それらが全てカウントされるので、膨大な数になります。

一般的に薬局では800~2000種類を扱っていることが多いかと思ひます。大きい病院でも、注射を除けば1000種類くらいではないでしょうか。

一例として、私が所属している三田調剤薬局では1500~1600くらいを扱っています。小さい薬局でも、大きい病院より扱う種類が多いのは、病院では院内の採用薬というのが決まっているのに対し、薬局では、いろいろなクリニックや病院から処方せんを受け付けるので、それらに全て対応していかなければならないので、種類がたくさんないといけないのです。

薬の管理

薬にはそれぞれ、ロット（製造番号）というものと、使用期限というものが決められています。問屋さんから薬が納品されると、まずはそのデータをパソコンに取り込みます。基本的には使用期限の近いものから順番に使用するようになっています。1か月ごとにどの薬が何錠使用されたかを紙に印刷し、1か月にどれくらい必要かをわかるようになっています。

たくさん出る薬は箱をあけたらすぐに発注し、少ししか出ない薬は1か月で使用する量を目安にして発注します。

それでも、1人か2人くらいしか使っていない薬は、いつのまにかでなくなって古くなって期限がきれてしまうこともあります。そのために、1年に1回棚卸（たなおろし）というのを行ひます。棚卸では、薬局で扱っている全ての薬の数を数えて、どの薬が何錠あるというのを確認します。そしてその時に、使用期限が1年数か月以内に切れるものをエクセルに入力して、ひと月ごとに期限の切れる薬の名前と数を表にしておくのです。なるべく薬を無駄にしないように、近隣の薬局さんと可能な限り、使用できる薬を使ってもらえるようにやりとりをすることもありますが、それでも期限が切れてしまう薬もあります。毎月、その月に期限の切れる薬を間違っして使用してしまうことがないように集めておき、月末に廃棄するようになっています。